

## 着心地の良い衣服パターン設計 (第5報)

## — ジャケットの着心地評価 —

文化女大家政 池田和子 佐藤真知子 渡部旬子 ○宮川由香

目的：現在市販されている既製ジャケットの着心地評価を行った。測定は物理量と官能量の2方向で行った。

方法：サンプルとして取り上げたのは、代表的な婦人アパレルメーカーの6ブランドで1992年度において最も売れ筋商品であり、しかも外見の似ている紺のブレザーとした。測定は、衣服圧分布(第1報のシステム)と、衣服の歪量(第3報のシステム)による物理量を2つと官能量を求めた。官能評価は、差の検出力の高い対比較法による5段階評価とし、識別能力の高いパネル(143名よりSN比にて選定)17名を用い、ツッパリ感、圧迫感、動き易さ、フィット感、総合評価の5つの官能量を求めた。衣服圧分布は、衣服パターンに対応した60点のセンサーによる分布を2次元表示と圧力値で求めた。衣服の歪量は、衣服の圧力分布図により動作適応する上で、負荷の大きい部位5点に絞り、2軸センサーにより求めた。解析は、主成分分析、分散分析を行った。

結果：官能評価による着心地評価においては、圧迫感が70%の寄与率でウエイトの高いことが明かとなった。又6ブランド間においては4ブランド間に有意差が認められ、評価の良否を明らかにすることが出来た。

官能評価と衣服圧分布及び歪量との対応は、ほぼ同様の傾向が認められた。